

方形周溝墓  
④490年、1719

壺棺は、殷民の子孫のもので  
あろう。古墳時代257年

2,970年

河出257年 窯棺④1809年

「古墳時代」255年に記載あり  
↓ 次頁15行は書いてある

第五十一章 近畿地方の古墳	
□ 大和の弥生式文化の葬制は、少數の壺棺を	除いてまだ究明されていないといわれている。
以下(古墳時代)(上)河出書房、二五五七	三一八頁へ畿内およびその周辺森浩一・石部正志(参考)
○ つまり、近畿地方の壺・窯棺墓は扶余系殷民の子孫等が小児を葬る際に用いたのだ	繩文晩期に渡来した
ううべと思われる。既述	● 「あれほど多くの弥生時代遺跡(集落)を
に葬らされたのだろうか	残りた弥生人たちが、死後はどういふよう
と、いふ素朴な疑問に対しても、実証的には現在	に葬られたのだろうか
和だけではなく、畿内全般に共通する。	といふと、このことは、大まかに
回 一方、	このとおりである。
へ当初の弥生人の子孫達は、□方形周溝墓	大まかに
に葬られたのであろう	考へてみた。(第五章へ東国に戦死者)。
ともあれ、今日の段階では	考へてみた。(第五章へ東国に戦死者)。
第二十五章 □方形周溝墓の項において既述	考へてみた。(第五章へ東国に戦死者)。

古墳時代-227

(天子  
改行)

内容

内容に於いて弥生後期から継続である。

とするとには幾多の解決されなければならぬ。

障害

と推定され、(櫻井茶臼山古墳)でさえ、墳丘の

規模は大きく、墳形は規格化の

後円墳である。(写真図版)

ニ小らの大形の前方後円墳に先行するもの

と一して、小形の円墳の存在を予想する人もい

るが、ニの地域内では実在かとめられていく。

なさい。

唐突に

巨大なすかたを

いたのだった。(古墳時代)(河出書房)

五七二七七貞参考

すなわち、弥生時代後期と古墳時代初期との

木に竹を接りだかのように下りきなり古墳時代へ

突入した感がある。

(卷頭の第3表参考)

木に竹を接りだかのように下りきなり古墳時代へ

2,971-3/2

2,971-3/2

2,970-3/2

巨大. 鼻 14 尺

$$\underline{2.971^P - 1/2}$$

次頁 9行 素戔鳴尊 すさののめこのじん かみの 制度 けいど

ようゆう  
両方  
由29/2 1/2 行 「かん  
感」前後未行  
「あいだ」とは。

それではこの兩者の間の大差は、何を意味していふのだろうか。おやらく、今まで種々述べてきたよう

ある箕子塚から高塚式墳墓の築造法を学び、  
その後やがて箕子塚支配へいた北九州は中國地  
山口地方を奪い取り、一々ついたは中國地

のであらうと思われ。 (既述)

ニッセイ  
忽然  
ハキナリ  
④ 2990<sup>1/2</sup>

突然訪れる古墳時代とか、漸進的なつながり方を一なまの ~~アラウ~~ うらへと想察され。と

④ 2470<sup>1/2</sup>

では、近畿地方に古墳文化がたらされたのは、一体、いつ頃のことで、たのだううか。  
すでに、第三十九章へ荒陵の頃において、先ず、三世紀中葉の頃

2.971-3/2

素戔鳴尊 新嘗109下

朱2行

大己貴命 新嘗113下

ようた

(2)

素戔鳴尊 新嘗109下13行

朱2行

ようた

狼佐え男命等によつて高塚式古墳が近畿地方へ賜された可能性がある。(言得ることではない)  
しかし、たとえうであつたと一してお、公こうこうう。  
倭國は、四世紀後半に高塚式古墳を作り続けていたが、  
さらく出雲国(今の近畿地方)を譲り受けた  
ようと思われる。(第1・3表参照。既述)

中国地方(岡山周)

コクヨ ケ-20 30×20

409 ①



2,973 F

墳時代(上)河出書房、五四七五六貞参照)

からに、埴輪円筒列、埴輪家、きぬかべ。  
楯・鞍などとの器財埴輪を墳丘にたてならべる  
ことも一般化するに至つた、といふ。(古)

1

書き込み

かくごと

昭和29年9月  
1/3未  
-33中

2.974 P

古墳の発掘方 佐川出 古墳時代上621, 11"

日本古墳100選 1961

昭和29年9月  
1/3未行へ

紀末から五世紀初めにかけて造られたものとされ、日本古代史の原点であるかのように考えられてきた。(第四十八章入仁徳天皇の陵)は、四世の項において既述

「しかし前方後円墳の型式変遷からいうと仁徳陵は、決して最古型式ではなく、むしろ発展した形態の諸特徴をもつてゐる」という見解がある。(倭の五王・藤間生大)

出書房、十一・十三頁参照

岩波書店、八〇・八一頁。古墳時代(山河)

「さて、先にすでに述べた通り、仁徳陵は、五世紀前半に造営されたのであるが、この陵は、仁徳陵は、五世紀後半から六世紀にかけて造られたのではないかと言うが、その理由は、この物語においては、さらく時期を

解り下げる」の項において既述

「だが、この物語においては、さらく時期を

の神・仁徳陵の築造年代につけて

応神天皇陵は、四世

仁徳天皇陵は、四世

応神天皇陵も仁徳天皇陵も、聖德太子への

1423  
豆甲  
云1409°  
甲1483%

木眉庇 2090 石庵=婉 698  
半拂<sup>5</sup>小笠原木  
古墳<sup>2</sup>東洋、46° ポスト<sup>2</sup>美術館に鏡、刀の柄頭が

新K(1)-617下

2.975 P-Y

②2978-23 4行  
根筋3間違つてる前後7行 型式要器 人民  
タトル A  
③2973

金人の夢告以後、つまり七世紀に入つてから  
築造されたのであらう（第十八章仁徳天皇の  
陵の廻りに於いて既述）。

尚も一も元神。仁徳西陵墓の築造年代が  
七世紀以降に大きくすれ込むとすれば、  
古墳の型式編年と実年代との嗜み合せが根  
底から搖らべてにならる。

\*特に畿内の古墳については、白紙に戻して  
考え直す必要があるようと思ふ。

〔荒筋〕第一編【古墳の変遷】(おひで既述)

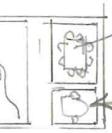
さて、明治五年九月七日、仁徳陵に土崩れ  
が起り、前方部（腹部）から偶然、遺體埋葬  
施設が発見された。第394。

それは、内部に長持形石棺を安置してゐる  
豊穴式石室だ。さて、石棺の内側に  
は、眉庇付冑、短甲、ガラス碗などの副葬品  
が置かれていた、と云う。日本古墳一〇  
〇選・竹石健二、秋田書房、一九五〇。

・カラー 頭の右上隅

次頁と共に、  
頭の上半分限度一杯は提出せ

掲載下さい。



次頁

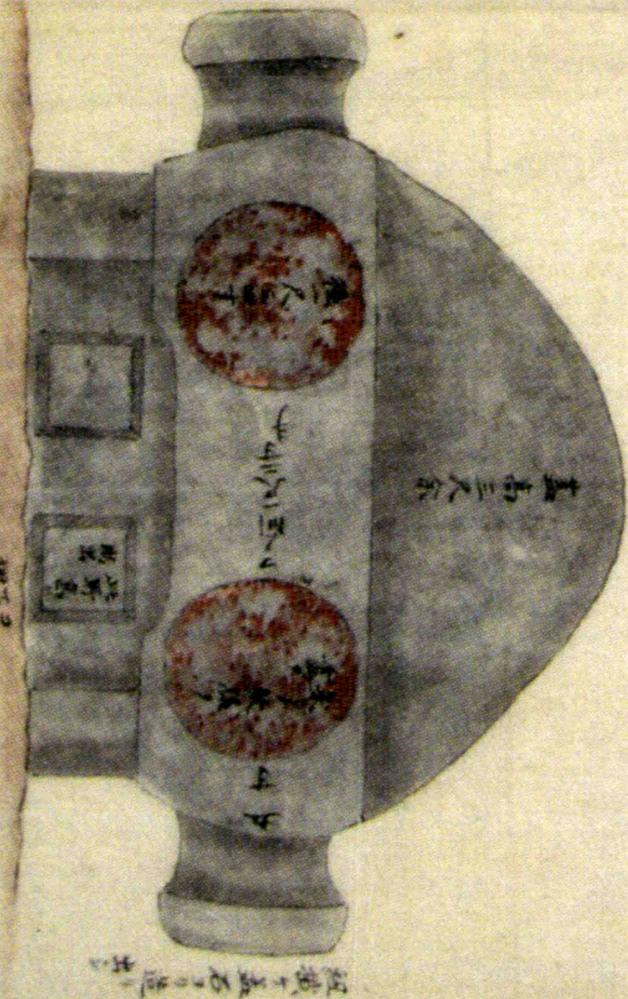
Q1

石棺正面圖

仁德天皇陵出土石棺

トカラ

状のヨコ"レ 大げをトル  
(ほかのヨコ"レはママ)



Q1 次頁の七十法に合せて下さい。

2.975 P-2/7

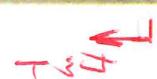
中井ヨリカケ  
14 QG コ4

第394図 仁徳天皇陵出土石棺の正面図

14 QG コ4 上部

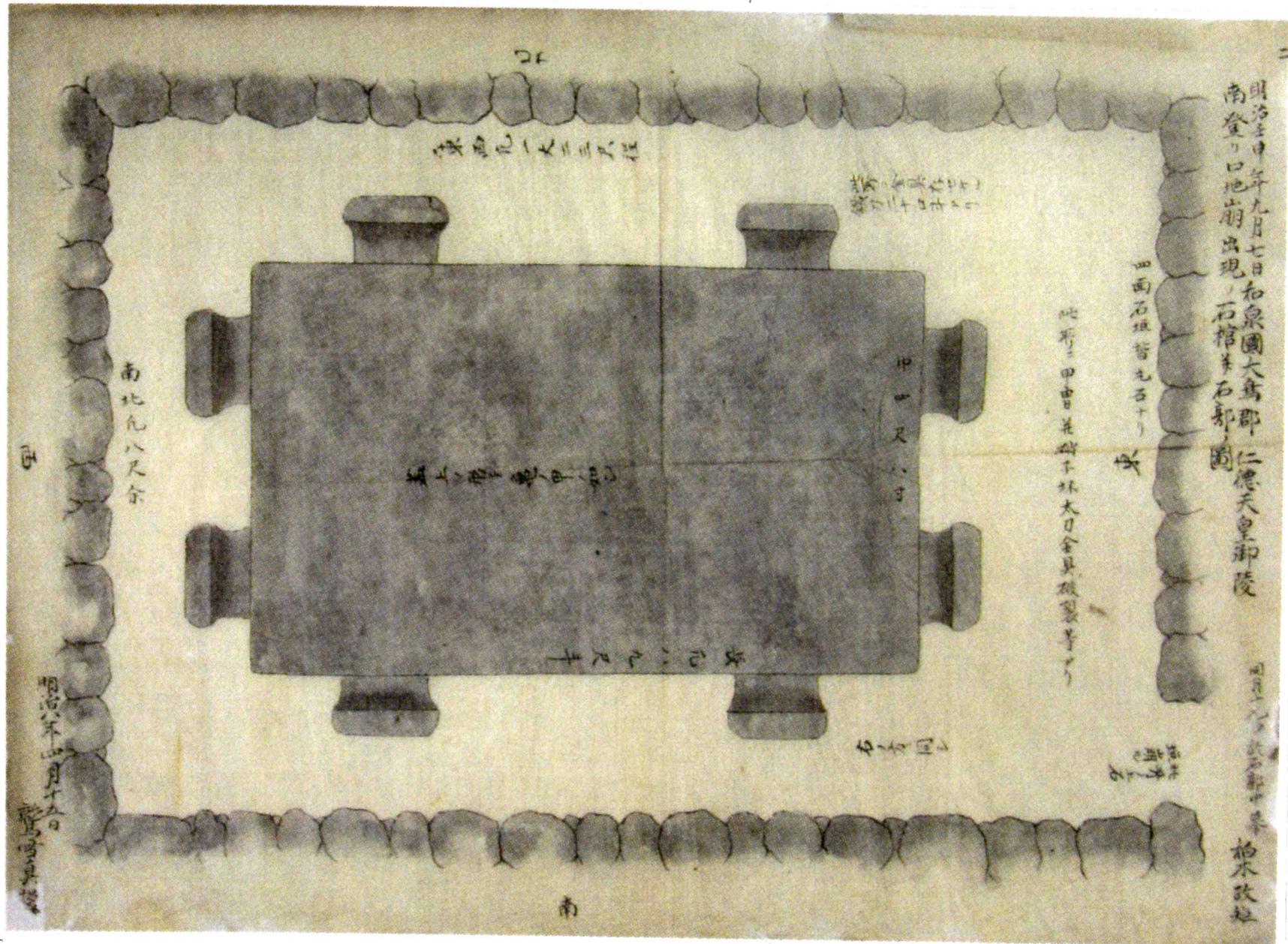
右づか所蔵

市中央図書館



414

・カラー  
・頁の左上  
・左ノ限度一杯  
はみ出で  
掲載下さい。



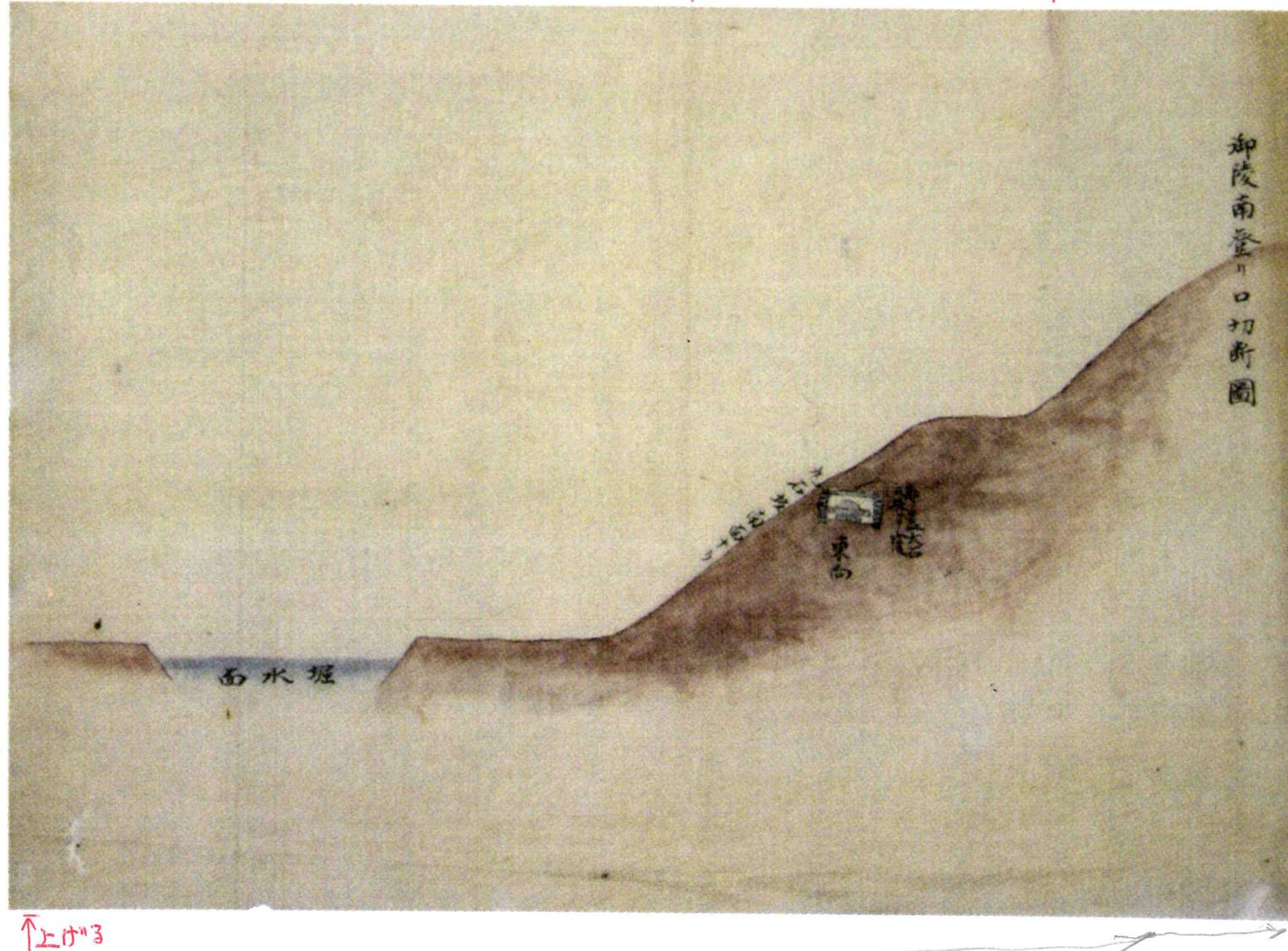
中心  
ヨリカナ  
140G

第395図 仁徳天皇陵 <sup>セイカン</sup>  
石棺上面と石槨内部の壁面 <sup>セッカク</sup>

2,975-4/7  
フマ

ママ ほのヨコレも全てママ。

- ・カラー
- ・負の下。  
↑
- ・左右を限度一杯  
はみ出させて  
掲載下さい。



所蔵／八王子市郷土資料館

第396回 仁徳天皇陵「御陵南登り口切断図」

『古墳に秘められた古代史の謎』大塚初重監修 宝島社 2014年3月24日発行 74頁参照 (3図共)

416

説も 長年有 力視され てキタカ 最近では人 篇	前面の土 が大きく崩れて石 棺(石室)が現れ る	大量に降った 間に、明治五年 の大仙陵(仁徳陵) の前方部	棺(石室)が ありたと記録 であるか、いま確認 できな	場所につけて あると記載 される	二年(一六七七) に、塚奉行・稻垣 淡路守は、石棺 の所在	また、江戸時代前期の一六八五年(貞享二 年)にわたり因 み、生垣で六〇間 にわたり囲	幅五尺五寸(一六七七) の石棺(後円部)に 有り、石の唐櫃 (石棺)があり、石 の蓋長一丈五寸(三一八七) とある	全塚詳志(一七五七年へ宝暦七年) 御廟は北峰(後円部)に有り、石の唐櫃 (石棺)があり、石 の蓋長一丈五寸(三一八七) とある	「仁徳天皇の埋葬施設は、いままだ不明であ る」との如き
---	-----------------------------------	--	--------------------------------------	------------------------	--	---	--	---	--------------------------------

2975-1/7  
1299 2.975- 6/7

的に掘り出されたのではないか、とすら心外

族にて見るスケッチによれば、石櫛の大さ

さは長さ三十六四寸、三九四寸幅二四四寸

長持形石棺の蓋には、左右二個ずつ、前後に

二個ずつ合計八個の繩掛け突起があり、蓋の

屋根はカマボコ形である。

ヒュウ。(「古墳に秘められた古代史の謎」)

大塚初重監修 宝島社 二〇一四年三月二十四日発行

七四貞参照)

■ ま た 下

「ボストン美術館」仁徳陵から出土した  
と伝え立派な鏡や刀の柄頭が所蔵されて

おり、明治五年に持ち出された可能性があ

る。石室内部にあつた甲冑などは、模写1  
章で記録されていふ。二個のガラス器の存在は文

と云う。「古墳」森浩一、保育社、昭和四

十五年十二月一日発行、四六貞参照)

下 法隆寺町  
77°, 79° 仏教の知識百科 42  
天正 政宗

図表12、「古墳」清告一表紙・頂の前(説明)

「古墳の羨掘  
年10-38' 2.975P - 7/2

→ 562.1.31(+) 佐々木 俊 2110  
2/3 ~ 3/3

2,976<sup>P</sup> - 1/13攻貢  
から

疑問 視され 3 諸天皇陵

「神武天皇陵から孝元天皇陵迄の各天皇陵は、山凹であつて、考古学の対象となる遺跡ではない。しかし、古墳研究の対象となるのは、開化天皇陵以後、天武天皇陵までである。」

即位順をおおよそ合致してみると、あまりにも疑問が多いようである。

と、いふへ「古墳の発掘」藤浩一、中公新書

一四五六頁参照

内吉太郎 高武山 地図、古墳時代近藤義郎 293頁  
にて下線。 いまうづか 大AH1392154

5 file 2977

いまとつか 朝日H13.9.21付  
今城塚

2,976<sup>P</sup> - 713

允恭陵(大塙) 288<sup>回</sup> 大  
墓小碑 繩井銘 半美載世子  
まだ草書字。

允恭陵 ④ 2948-33 15

参考迄に述べると今城塚に能本県  
宇土市を中心とする一帯のピニク色の凝灰岩  
加用川流れ下りるといふとハラウ写真図版 536 参照  
考古学者の間で継体天皇陵とされてゐて  
1/15 2/15 3/15 4/15 5/15 6/15 7/15 8/15 9/15 10/15 11/15 12/15

の允恭天皇ハシメ四五四記の陵アマツシタツ又墓山アマツシタツ

Part 5

前言

2,976° - 3/13

- ・カラー
- ・右頃上半分に、  
左右を限度杯  
はみ出させて  
大きく掲載  
下さい。
- ・暗くならないよう  
にして下さい。
- ・明るくお願ひ  
します。



「いはらきの歴史と  
土器」8頁に  
継体陵写真有。

天皇後継陵 大阪市  
茨木市太田  
である

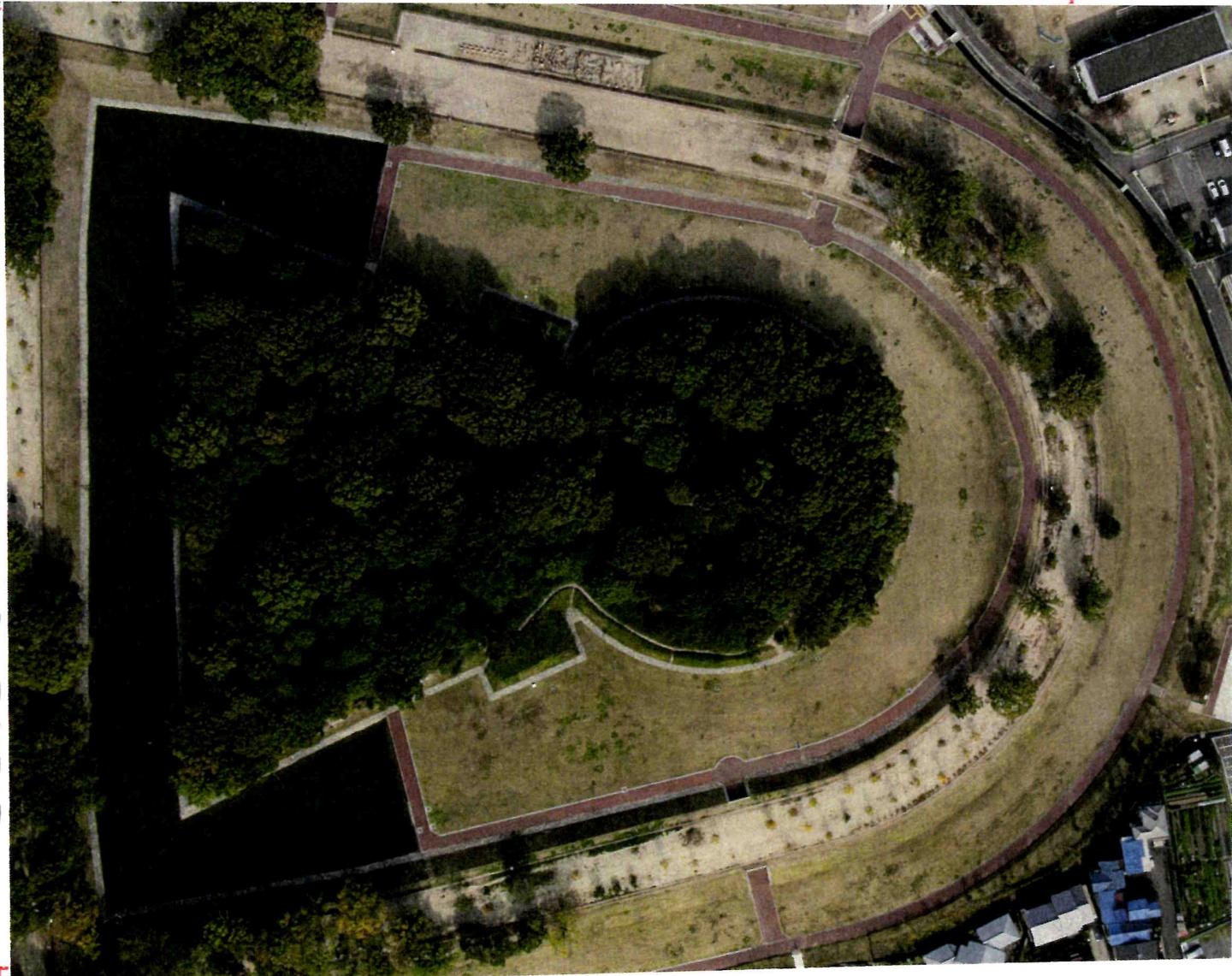
中心ふりかけ  
13QG  
中心ふりかけ  
14QG  
写真図版 534 継体天皇陵(太田茶臼山古墳)  
『よみがえる大王墓・今城塚古墳』森田克行 新泉社 2011年8月15日発行 59頁参照

12QG 全長226mの前方後円墳。  
後円部東北の外堤に置かれたとみられる家・馬・鶴・甲冑などの形象埴輪が出土した。 422°

・カラー  
・左頂上部分に、  
上を限度一杯突出させ  
掲載下さい。

・塗装  
明月17  
下21。  
↑

2,976° - 4/13



423

中心部(内側)  
13.0φ

中心部(外側)  
14.0φ

写真図版535 今城塚古墳

12.0φ ↑上アス たかアス くわせ くわせ くわせ くわせ

右アス うわせ

大阪府高槻市君家新町

「まづづ」

13

全長190mの前方後円墳

右下(1/4)

カット ←

2,976P-5/13

↑カット

- ・カラー カット
- ・左頁の右下(1/4)に掲載下さい。



次頁の写真

- ・暗くならないように下下さい。
- ・明るくお願ひます。



左・右両面の中心ひり  
13Q9 わけ、

中心ひりわけ  
14Q9

写真図版 536 滋賀県野洲市甲山古墳石棺 (ヒンク石棺)

424P  
移動

『大王の棺を埋ぶ実験航海』研究編 石棺文化研究会(宇土市教委内) 2007年10月13日発行 口絵(写真図版2葉共)

2,976<sup>P</sup> - 6/13

カット ←

→ カット

カット↑

- ・カラー
- ・左頁の左下  
(1/4)に掲載  
下さい。



142G 写真圖版 537 奈良県橿原市植山古墳東石棺 (ピンク石棺)

2,976P 7/13

・カラ一

右頁の上半分に、  
大きく掲載して  
下さい。



12Q年

中心あたり  
1409  
写真図版 538 馬門石石切場

・今回の剥抜式石棺の採掘では、地下4mまで機械掘削にてようやく良質な石材が得られた。 426P

2,976° - 8/13

- ・カラー  
右頁の下半分<sup>ヒラ</sup>  
大きく掲載して  
下さい。

- ・暗くならないよう  
ト、注意して  
下さい。
- ・明るくお願い  
します。



1209

たつやま 川切りば

1409 写真図版 539 竜山石石切場

たつやま 川切りば

2,977° - 8/14 14:18

左側に葉の木がある

- ・竜山石石切場はきわめて大規模であり、現在もなお商業ベースで採掘が続いている。

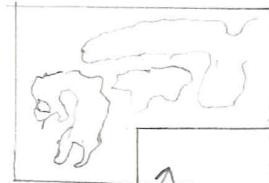
1309 『よみがえる大王墓・今城塚古墳』森田克行 新泉社 2011年8月15日発行 41頁参照 (上下2葉共)  
427

2,976<sup>P</sup> 9/13

・カラー

・左頁の上半分に  
大きく掲載(?)  
下さい

この図の右下に、  
次頁の写真を  
載せて下さい。



和田田、伊東田

14QG

りまいろつかせんざい  
第397回 今城塚の石棺材 およびその他の

13Q4

石棺材産地

『よみがえる大王墓・今城塚古墳』森田克行、新泉社、2011年8月15日発行、14頁参照。『朝日新聞』平成17年8月27日付「石棺はるばる古代船が到着」参照。

著作権許諾は  
上だり。

14Q4 13Q4 13Q4 2005年8月23日(神戸沖)  
写真図版540 蓋用台船を曳航中の古代船

428

Q4

13

13

13

13

13

13

13

13

13

13

13

13

13

・カラー

・前頁の画面中の右下に配置下さい。

2.976° - 10/13



↑

↑カラ  
ト

タブリ トレ  
2005年8月23日(神戸)

2,976° 11/13

↑ カラー

左頁の下部分に  
大きく掲載して  
下さい。

石棺を、もう少しピンク色に  
しておいてほしい。



↑ カット

大王の棺を運ぶ  
実験航海  
144隻による  
白雲の向洋の  
浮城がある

ピンク石(馬頭石)

### 140G 写真図版541 2005年に今城塚でおこなわれた石棺修羅引きイベント

140G • 重さ約7tの石棺と重さ約2tの修羅を市民ら約400人で曳ききった瞬間。

140G 会場は砂ぼこりと見学者の歓声に包まれた。

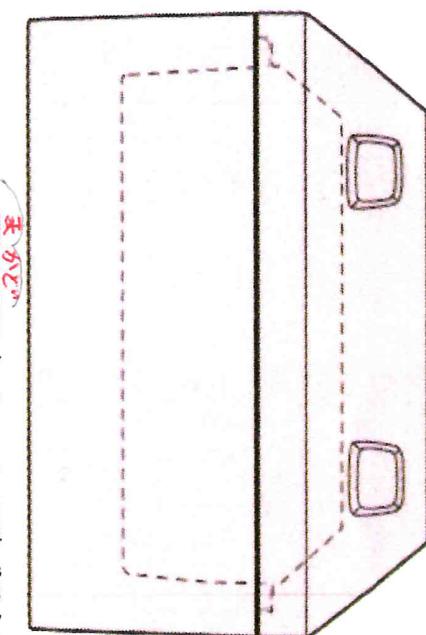
13日午

『みがえる大王墓・今城塚古墳』森田克行 新泉社 2011年8月15日発行 13頁参照

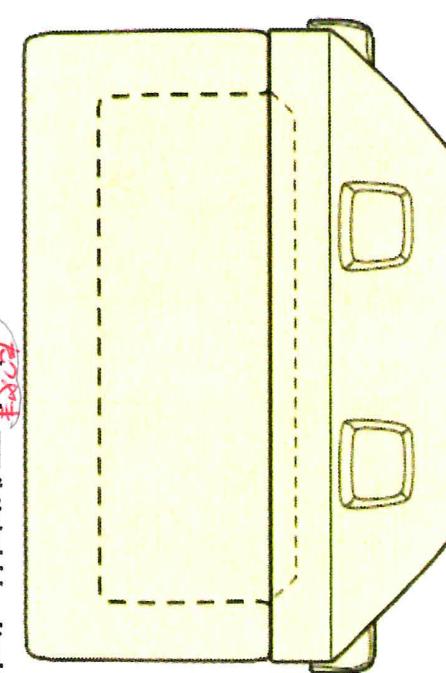
140G • 修羅と地面との間に『転』(堅くて丸い棒)を挿入すれば、簡単である。この当時の人が知らなかつとは思え  
ない。

(第8巻) 430

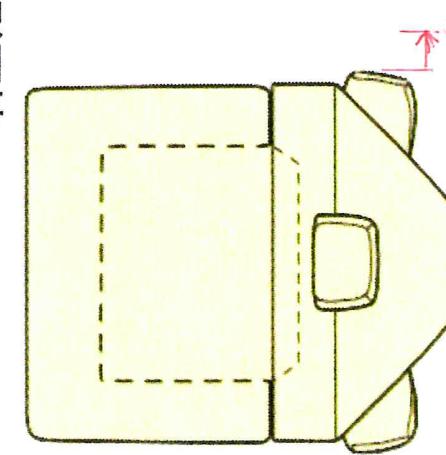
- ・カラー
- ・右肩の左寄り
- ・掘裁下さい
- ・上段度一杯  
突出させて  
下さい。



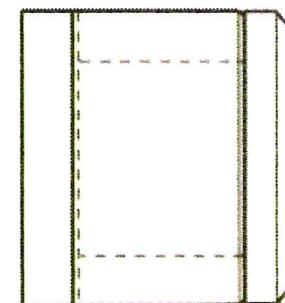
馬門石(ピンク石)製割抜式家形石棺



竜山石製割抜式家形石棺



二上山白石製組合式家形石棺



中段(中柱)

140cm

「ま」づか  
特字印

上段(上柱)

0 100cm

第398図 今城塚

3基の石棺の想定図

中段(中柱)

130cm

「ま」づか  
特字印

上段(上柱)

中段(中柱)

120cm

「ま」づか  
特字印

上段(上柱)

出土した各石棺材から復元される石棺の規模は竜山石製  
が最大で、ついで馬門石製、二上山白石製となる。

『ふみがえる大王墓・今城塚古墳』森田克行、新泉社、2011年8月15日発行、39頁参考